

# J-STAGE NEWS



## CONTENTS

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 01 J-STAGE Dataでの研究データ公開を推進するための取り組み | 04 J-STAGEアップデートのお知らせ<br>～サービス停止時間が大幅に減少します～ |
| 03 シリーズ学会訪問<br>～日本体力医学会～             | 05 JaLC REST APIリリース<br>～学術情報の流通・活用促進を目指して～  |

## J-STAGE Dataでの研究データ公開を推進するための取り組み

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2022.48.1>  
©2022 Japan Science and Technology Agency



### ■研究データの公開は道半ば

J-STAGE Dataのリリースから2年近く。J-STAGE Dataの利用を希望するJ-STAGE掲載誌は想定よりも多く、これまでに利用を申し込んだジャーナルは50誌となり、今年度の受け入れ予定枠を上方修正しなければならないほどでした。しかしながら、現時点で利用手続きおよびサイト構築が完了して研究データの公開が可能になった39誌のうち、実際に研究データを公開しているのは16誌で半分にも届いていません。公開されている研究データの数も240ほど、これも期待された数には達していません。ジャーナルの側としては、J-STAGE Dataを利用しはじめてみたものの、論文の著者からは研究データはなかなか公開されない、というのが実情のようです。ジャーナル編集委員長の方々との話でも、論文の投稿者から研究データを公開したいという申し出をうけることはほとんどなく、現時点で積極的に研究データを公開しているジャーナルは、編集委員長自ら、論文の投稿者に対し研究データの公開を積極的に働きかけているところのようです。

ここでは、J-STAGE Dataから積極的に研究データを公開しているいくつかのジャーナルについて、論文の投稿者にむけ具体的にどのような働きかけをしているのか、また、どのような環境整備を進めているのか、具体的な例を紹介いたします。

### ■パンフレットの作成－日本気象学会

日本気象学会の英文誌「*Journal of the Meteorological Society of Japan* (気象集誌)」は、J-STAGE Dataをリリースの直後から利用しています。気象学という研究分野の特徴として、データ容量の大きい研究データを扱うこと、また、研究データの共有が進んでいることがあげられ、これまでに「気象集誌」はJ-STAGE Dataからさまざまな研究データを公開しています。

「気象集誌」はJ-STAGE Dataの利用を呼びかけるパンフレットを制作しジャーナルのウェブサイトでも公開 ([https://jmsi.metsoc.jp/jstage-data/JMSJ\\_JStageData.pdf](https://jmsi.metsoc.jp/jstage-data/JMSJ_JStageData.pdf)) しています。このパンフレットでは「気象集誌は論文の根拠となる研究データをJ-STAGE Dataから公開することを推奨している」として、「J-STAGE Dataとはなにか」「なぜJ-STAGE Dataを利用するのか」「どのように研究データを掲載すればいいのか」といったことがシンプルに説明されています。このカラフルで訴求力のあるパンフレットによって、論文

の投稿者の多くがJ-STAGE Dataからの研究データ公開を検討するものと期待されます。

「気象集誌」ではこのパンフレットのほか、ジャーナルのウェブサイトにJ-STAGE Dataの専用ページ (<http://jmsi.metsoc.jp/jstage-data/index.html>) を設けて研究データを公開している論文のリストを掲載するなど、J-STAGE Dataの閲覧を高めようとしています。さらに、投稿規程においてJ-STAGE Dataについて記載しているほか、J-STAGE Dataでの研究データ公開のガイドライン (<https://jmsi.metsoc.jp/JMSJ-JSTAGE-DATA-Guidelines.pdf>) を策定し公開しています。

### ■学会誌での周知－電気化学会「*Electrochemistry*」誌

電気化学会の英文誌*Electrochemistry*誌は、以前よりJ-STAGEにおいて電子付録の機能を用いて論文付随データを公開していましたが、J-STAGE Dataの利用を開始してからは、J-STAGE Dataからの公開に十分に適した研究データについてJ-STAGE Dataから公開しています。

電気化学会では2021年4月5日付にて学会のウェブサイトから「学会のお知らせ」として「J-STAGE Dataによる*Electrochemistry*掲載論文のオープンデータの取り組みについて」を公表しています。ここでは、2013年のG8サミットでの「オープンデータ憲章」の合意、また、第6次科学技術・イノベーション基本計画などを引用したうえで、*Electrochemistry*誌がJ-STAGE Dataの利用を開始したことを述べ、電気化学会のオープンサイエンスへの取り組みについて説明しています。

さらに、*Electrochemistry*誌2021年89巻 Announcements号には「*Electrochemistry*への論文投稿の手引き」(和文) および「Instructions for Authors Submitting Papers to *Electrochemistry*」(英文) が掲載されており、そこでは「J-STAGE Dataへのデータ掲載」というセクションが設けられ、J-STAGE Dataへの研究データの投稿方法が詳細に記載されています。また、電気化学会の和文誌「電気化学」誌2021年89巻2号には「*Electrochemistry*」誌副編集長の水畑 穰氏の執筆による「Supporting Informationに代わるデータリポジトリ“J-STAGE Data”の活用について」

([https://www.jstage.jst.go.jp/article/denkikagaku/89/2/89\\_21-OT0031/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/denkikagaku/89/2/89_21-OT0031/_pdf/-char/ja)) が掲載され、学会員にむけJ-STAGE Dataについて説明し研究

データの投稿を呼びかける内容になっています。

#### ■ウェブサイトでの周知—日本森林学会「日本森林学会誌」

日本森林学会の和文誌「日本森林学会誌」では、ジャーナルのウェブサイト「投稿案内」にて「J-STAGE Dataでの論文データの公開（2021年11月11日版）」（<https://www.forestry.jp/content/images/2021/11/a1c10ad925a2e6bb2c7e8d56268d9c4d.pdf>）を公開しています。ここでは、データ公開のメリットや対象となるデータなど、いわゆるデータポリシーにあたる内容、そして、「日本森林学会誌」における研究データの実際の投稿方法がかなり詳細に述べられており、論文の投稿者はこれを見ることがJ-STAGE Data利用の全貌が理解できるようになっています。

#### ■データポリシーの策定—情報科学技術協会「情報の科学と技術」

JSTでは、収載・公開する研究データおよび付与される情報の取り扱いに関する基本方針について「J-STAGE Dataデータポリシー」（[https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub\\_JstageData\\_policy\\_for\\_members.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_JstageData_policy_for_members.pdf)）を策定し公開していますが、実際に、どの研究データをJ-STAGE Dataに収載するかは、ジャーナルおよび著者が決めることとしています。そのため、データの選定・公開・管理のポリシーはそれぞれのジャーナルで検討する必要があります。

情報科学技術協会の会誌「情報の科学と技術」では、J-STAGE Dataの利用開始にあわせて「データ共有・公開ポリシー」（[https://www.infosta.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/jkg\\_datapolicy\\_ver1.pdf](https://www.infosta.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/jkg_datapolicy_ver1.pdf)）を策定し公開しています。ここでは、論文の著者はJ-STAGE Dataにかぎらず、J-STAGEの電子付録およびその他の外部リポジトリから研究データの公開が可能であるとして、共有・公開する研究データに生じる外的な制約や著者の責任などについて詳細に記述されています。このデータポリシーの策定によって、研究データを公開する著者の側、そして、ジャーナルの側において、研究データの取り扱いが明確になりました。

今後はこの「情報の科学と技術」誌のように、ジャーナルとしてデータポリシーを策定することが求められるでしょう。なお、データポリシーの策定にあたっては、研究データ利活用協議会 研究データライセンス小委員会による「研究データの公開・利用条件表示ガイドライン」（[https://doi.org/10.11502/rduf\\_license\\_guideline](https://doi.org/10.11502/rduf_license_guideline)）が非常に参考になります。

#### ■研究データの取り扱いについて投稿規程への記載

JSTでは、ジャーナルの投稿規程に研究データの取り扱いについて記載することを推奨しています。具体的には、公開され

ている研究データや資料の出所を開示すること、著者は研究データや資料を電子付録あるいはコミュニティに認知されている公的データベースやリポジトリにて公開できること、すべてのデータセットは査読の過程で編集委員と査読者が完全に利用できるようにすること、著者はジャーナルの定める期間はデータセットを保存すること、などです。さらに、J-STAGE Dataを利用しているジャーナルにおいては、J-STAGE Dataの利用についても記載することが望まれており、ひな形として以下のような文面も用意しています。

-----

本誌は、論文の根拠となるデータを、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するデータリポジトリJ-STAGE Dataから公開することを推奨する。J-STAGE Dataからの研究データ公開にあたっては、著者は公開する研究データを編集委員会に提出し査読を受けねばならない。J-STAGE Dataでは、研究データはクリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンスを付与し、さらにはオープンアクセスとして公開される。

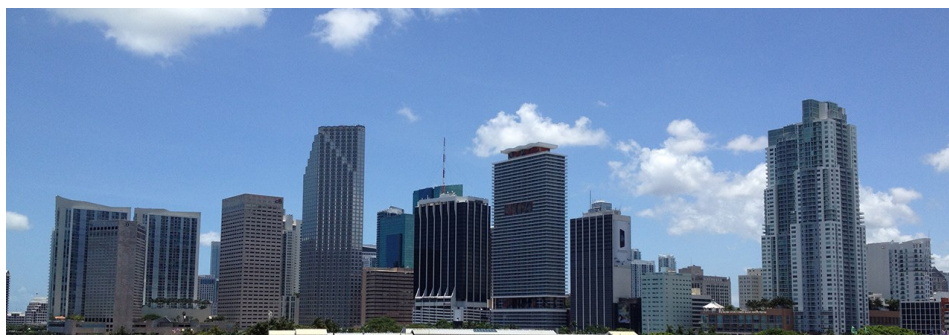
-----

J-STAGE Dataを利用していないにもかかわらず、研究データの取り扱いについての投稿規程への記載につき、この機会にぜひともご検討いただきたくお願いします。

#### ■おわりに

以上、J-STAGE Dataからの研究データの公開を推進する取り組みを、いくつかのジャーナルについて紹介しました。J-STAGE Dataの利用方法、また、具体的な運用方法はジャーナルごとに多少とも異なり、さらに、研究データの公開に対する考え方もジャーナルごと、とくに研究分野ごとに違いがあります。ここで紹介した先進的な取り組みを参考に、それぞれのジャーナルごとにJ-STAGE Dataからの研究データ公開を推進し、研究データの公開による新たな研究の地平が開かれることを期待しています。

J-STAGE Dataは随時、J-STAGE利用機関からの利用申し込みを受け付けています。研究データの公開に多少ともご関心があるなら、J-STAGE Dataからの研究データの公開についてぜひとも検討いただきたいと考えています。J-STAGE利用機関をひろく対象としたJ-STAGE Data「説明会」を開催しているほか、J-STAGE利用機関に対して個別に、とくに編集委員長や編集委員を対象としてJ-STAGE Dataについてくわしく説明し質問に答える「意見交換会」を開催しています。この「意見交換会」はJ-STAGE利用機関の都合にあわせて開催しており、J-STAGE Dataの利用申し込みを前提にせずとも話を聞くだけでも大歓迎です。少しでもご興味があったら、ぜひ[data-contact@jstage.jst.go.jp](mailto:data-contact@jstage.jst.go.jp)あてに連絡ください。







# シリーズ学会訪問 ～日本体力医学会～

本号では、JSTのジャーナルコンサルティングを受け、英文誌「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)」がDirectory of Open Access Journals (DOAJ) に掲載された、一般社団法人 日本体力医学会の後藤勝正編集委員長にお話を伺いました。



後藤勝正編集委員長

## ■貴会とジャーナルの沿革、特徴について教えてください

本学会は、1949年（昭和24年）に第二次世界大戦終了直後の国民の体力低下、栄養不良による抵抗力低下に起因した感染症防止策としての栄養学的研究の必然性も加わり、体力、疲労、労働衛生班および体育協会医事部のメンバーなど、スポーツ医学に関心ある研究者により設立されました。また、日本医学会の第39分科会であり、学会大会は1951年の第4回大会より国民体育大会（国体）開催地で開催されています。2021年は三重県で（Web開催）、2022年は栃木県で第77回大会が開催される予定です。

「体力医学」は、東京慈恵会医科大学創設者で脚気栄養欠陥説を世界で初めて唱えた高木兼寛先生と、講道館柔道の創始者であり「日本の体育の父」とも呼ばれる加納治五郎先生の二人の研究者の出会いによるところが大きく、国民の健康と疾病予防には医学と運動（体育）が重要であるという考えが源流になると考えられます。この二人の考えを引き継いだ東京慈恵会医科大学と東京教育大学（現筑波大学）間の教育と研究の交流を礎に、日本体力医学会が発足しています。

和文誌「体力科学」は、1949年にサプリメント、1950年に第1巻を刊行して以来、今年で第71巻を発行しています。英文誌

「JPFSM」は、我が国を中核としたアジア太平洋地域において体力医学に係る研究成果を世界に発信していくことを目的に2012年に創刊し、昨年第10巻を発行したところです。ちょうど10年目の節目にあたる年にDOAJに掲載されたことは非常にありがたく感慨深いものがあります。



The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine誌

## ■J-STAGEを利用されたきっかけと、利用後のご意見をお願いします

JSTのジャーナルアーカイブ事業（Journal@rchive）に採択されたことがきっかけです。当時、「体力科学」の保存方法について検討を始めた学会の方針とも合致したことから参加しました。この事業をきっかけとして、「体力科学」を1巻1号から学会として全て集めることができたのは非常に有益なことでした。その後、JPFSMを含めてJ-STAGEに参加しました。本学会のジャーナル編集業務はJ-STAGEとは切っても切れない関係にあり、サービスが続く限り利用させていただきたいと思っています。J-STAGEサービスをできるだけ有効活用して知名度のアップと論文の質向上を目指していきます。最近、

Similarity Checkの利用を開始しましたが、このようなオプションサービスも無理なく使えるようにしてもらえるとありがたいです。

## ■DOAJ収載後の状況とジャーナルコンサルティングのご感想はいかがでしょう

収載からまだ間もないですが、海外からの投稿が増えており、今後もさらに増えていくことを期待しています。投稿規程の国際基準にあたっては、見落とししていた部分や気がついていなかった部分等が明らかになり非常に良かったです。現時点で国際基準の投稿規程ができたので、これを見ただけであればジャーナルの目指すところを十分理解してもらえるようになりました。不満な点は特にありません。体力医学の分野で、今後も引き続き日本が中心となってアジア太平洋地域を牽引する強力なイニシアチブを保つためにも、ジャーナルコンサルティングは大切だと思います。また、多くのジャーナルが日本のサイエンスコミュニティを維持、発展させていく上でも、国際化に向けてコンサルティングを受けることを強く推奨します。期待する点としては、コンサルティング後のフォローアップです。学協会の重要な基幹事業であるジャーナル出版事業を維持していくために、J-STAGEセミナー等で情報の逐次発信を行って欲しいと思います。

## ■学協会を巡る情勢への対応や国際展開について

日本のコミュニティは日本語を主な言語にしているため、広くジャーナルを知ってもらうにはオープンアクセス（OA）、少なくともフリーアクセスが最低限必要です。多くの人に学協会の活動を知ってもらうためにもOA化は必須であると考えます。海外大手出版社が研究成果の発表の場を寡占している状況下で、APC（Article Processing Charge）は非常に大きな問題だと思います。現時点ではJ-STAGEを活用することでAPCを低く抑えつつOA環境ができていますので、なんとかこの低いAPCを保つことで、多くの研究者に研究発表の場を提供するべく学会としても努力していきたいと考えています。

## ■今後の方針についてお聞かせください

バブル経済期の頃は、学会員も増えて事業が多様化し支出も増える傾向があったと感じています。しかし、団塊の世代の研究者が現役を退くなど学会員数が減少傾向にある昨今、本学会では事業の全面的見直しを行い、収支バランスが取れている状況にあります。今後も会員数が減っていくことを見越して、10年、20年、50年先どのように学会活動を行っていくかを考え始めているところです。資源のない日本において知的財産を生み出す学術研究は大切であることは言うまでもありません。学術研究の発表などの交流の場である学会の存在意義は大きいと考えています。ジャーナルの出版事業は学会とその分野の研究の発展にも繋がり、さらには日本のサイエンスコミュニティの未来を拓くものと考えています。一方で、ジャーナルの認知度と質を向上するための施策も重要です。J-STAGEセミナーを通して勉強させていただいた事を活かして、こうした課題に積極的に取り組んでいきます。

## ■ありがとうございました。J-STAGE もサイエンスコミュニティの推進に努めてまいります。

# J-STAGEアップデートのお知らせ ～サービス停止時間が大幅に減少します～



J-STAGEでは、ユーザーからの要望や電子ジャーナル出版業界の最新動向等を踏まえ、システムの改善や機能拡張に取り組んでいます。このコーナーでは、開発・改修中あるいは新たにリリースされた機能・ツールをご紹介します。

今回は、2021年9月にリリースしたメンテナンスモードについてご紹介します。

## ■メンテナンスモードとは

J-STAGEでは月に1回定期メンテナンスを行っていますが、これまではメンテナンスの内容によってサービスを停止せざるを得ない場合があります。この状況を改善するため、メンテナンス中でも資料および記事の検索・閲覧機能が利用可能な「メンテナンスモード」をリリースしました。「メンテナンスモード」実施時はページ上部（ヘッダー）にメッセージを表示します。

## ■メンテナンスモード中にできること、できないこと

メンテナンスモード中でも、フリーアクセスならびにオープンアクセスの記事は通常どおり閲覧できます。また、IPアドレスによって認証をかけている記事も、アクセスが許可されているIPアドレスからの閲覧は通常どおり可能です。

一方、購読者番号によって認証をかけている記事の閲覧や、

PPVの記事の新規購入は行えません（購入済みの記事は閲覧可能です）。これらの記事は、メンテナンスモード中は書誌画面から閲覧および購入の操作が行えない他、ブックマークやURL直接指定等によりアクセスした場合にはメンテナンス中であることを示す画面に遷移します。また、編集登載システム、書誌XML作成ツール、COUNTERレポートサービス、閲覧者向けのアカウントサービス「My J-STAGE」へのサインインおよび各種機能は、メンテナンスモードにおいても、これまでのメンテナンスと同様、利用できませんのでご了承ください。

詳細はリリースノートをご覧ください。

[https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub\\_release\\_20210925\\_2.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_20210925_2.pdf)

また、J-STAGE HPの「メンテナンス情報」のページでは、今後のメンテナンス予定について随時更新しています。

<https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/News/TAB2/Page1/-char/ja>

※本件に関する質問等は下記までお問い合わせください。

JST（科学技術振興機構）

情報基盤事業部 J-STAGEセンター

メールアドレス：[center@jstage.jst.go.jp](mailto:center@jstage.jst.go.jp)



図1 メンテナンスモード中のJ-STAGEトップ画面の表示例

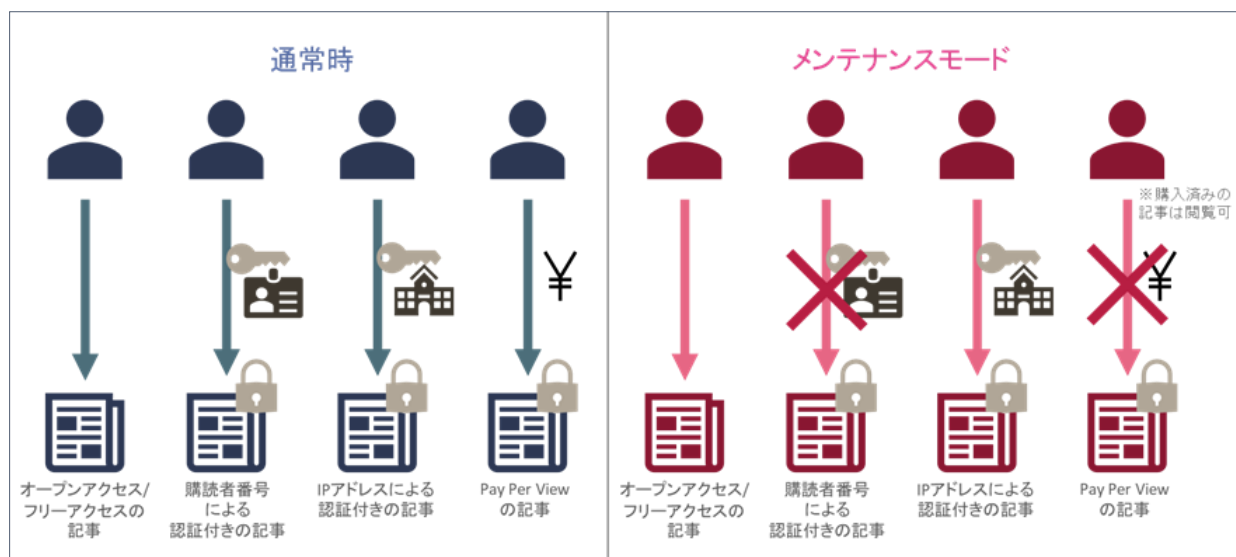


図2 メンテナンスモード中の記事の閲覧可否

# JaLC REST APIリリース

## ～学術情報の流通・活用促進を目指して～



ジャパンリンクセンター（JaLC）では、新たな情報提供機能として、JaLCが管理しているDOIやそのメタデータ（書誌情報等）を提供する「JaLC REST API」をリリースしました。

JaLCはDOI登録機関として、J-STAGE掲載誌をはじめ様々な国内学術コンテンツへの識別子「DOI」の登録を行っています。J-STAGE利用学協会等をはじめとしたJaLCの正会員および準会員は、それぞれ「プレフィックス」と呼ばれる文字列を割り当てられます。これらの「プレフィックス」および、各コンテンツを識別する「サフィックス」の組み合わせによりDOIが構成されています。

また、DOI登録の際に併せてJaLCシステムに登録される、タイトルや著者名、助成情報、引用情報等の書誌情報等や抄録といった情報（メタデータ）について、JaLCは一元的に収集・管理し、国内の学術成果流通に資するために活用しています。

JaLCは、国内外からの学術成果へのアクセス向上のため、2020年4月より保有するメタデータをオープン化することとし、そのためのサービス改修等を進めて参りました。今回リリースしたREST APIは誰でも利用でき、以下の情報をJSON形式で取得することが可能です。

### <取得可能な情報>

#### (1) DOIプレフィックスリスト

JaLCに登録されているプレフィックスのリストを取得できます。

#### (2) DOIリスト

JaLCに登録されているプレフィックスに紐づくDOIリストを取得できます。

#### (3) DOIメタデータ

JaLCに登録されているDOIのメタデータを取得します。（抄録を除く）

取得対象となるのは以下のDOIです（件数は2021年12月末時点のもの）

- JaLCにおいて登録・有効化されたDOI （約 677万件）
- JaLC経由でCrossrefに登録されたDOI （約 255万件）
- JaLC経由でDataCiteに登録されたDOI （約 2700件）

例えば、自機関に割り当てられたプレフィックスのうち、以下のように特定の期間に登録・更新されたDOIのリストを取得することができます。

プレフィックス：10.1241

指定期間：2017年4月1日～2018年3月31日

<https://api.japanlinkcenter.org/doi/10.1241?from=2017-04-01&until=2018-03-31>

実際の利用方法等については下記オンラインマニュアルをご覧ください。

JaLC REST APIオンラインマニュアル

<https://api.japanlinkcenter.org/api-docs/index.html>

本機能について、2022年度以降、対象リソースの追加や検索・フィルター機能、集計機能等の機能拡充を予定しております。

「プレフィックス」（各機関）ごとのDOIリスト等を取得できるJaLC初の機能です。是非ご活用ください。

### ※お問い合わせ

ジャパンリンクセンター（JaLC）事務局

メールアドレス：[info@japanlinkcenter.org](mailto:info@japanlinkcenter.org)

### ◆JST公式Twitter (@JST\_info)

JSTからのプレスリリース・募集案内・イベント情報などをお届けします。

[https://twitter.com/JST\\_info](https://twitter.com/JST_info)

### ◆J-STAGE公式Twitter (@jstage\_ej)

J-STAGEのメンテナンスやイベントに関する情報などをお届けします。

[https://twitter.com/jstage\\_ej](https://twitter.com/jstage_ej)

ぜひ、フォローしてください！

J-STAGEニュース No.48 2022年2月28日発行

編集発行：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

情報基盤事業部 研究成果情報グループ

〒102-8666

東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

E-MAIL：[contact@jstage.jst.go.jp](mailto:contact@jstage.jst.go.jp)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

©2022 Japan Science and Technology Agency



<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>